

廃炉プロセス 「燃料デブリ取り出し」

検討対象 「構造健全性」

課題 「PCV・建屋の構造健全性確保」

ニーズ

1. 構造物の健全性を検査・モニタリングしたい

燃料デブリ取り出し：【中期】

望ましい現状とその理由

- 燃料デブリサンプリングや燃料デブリ取り出しを安全に行うために、PCV や RPV 等の重要な機器・設備の支持機能を維持するためには、維持すべき機能（例えば、支持機能や閉じ込め機能等）を有する構造物の健全性を検査・モニタリングすることが望まれる。
- 検査・モニタリングに際しては、検査装置のアクセス性、設置性、評価手法の開発が望まれる。また、高放射線環境下でアクセスできない場合には、代替となる検査・モニタリング手法及び保守・保全技術が望まれる。

理想と現実のギャップ／解決すべき課題

- コンクリートは内外の現在の環境も含めて常に変化している。変形をつねに画像解析で評価することや、加速度計を設置して小地震の応答、あるいは特異な変形挙動についてモニタリングするとともに、建物剛性などを振動特性から評価することが必要となる。また、亀裂や腐食のみならず、変形や破壊のモニタリングを継続的に実施することが、許容される変形量等の把握の観点から望まれる。
- 高線量環境のため、構造物に接近できない、あるいは遠隔技術を用いても十分に構造健全性を検査することができない構造物に対して、構造物の状態や環境を推定する方法（例えば統計的解析手法や各種試験等の方法の考案・開発）が必要となる。
- 特に、S/C の足の腐食可能性は課題であり、どの様にモニタリング可能かが課題である。

（参考）関連する研究課題

実施されている研究課題

- 廃炉・汚染水対策事業「圧力容器／格納容器の耐震性・影響評価手法の開発（大規模地震時における安全シナリオの構築、安全シナリオ構築のための耐震性・影響評価手法の開発、安全シナリオの高度化）」

- http://irid.or.jp/wp-content/uploads/2017/06/20160000_11.pdf
- 課題解決型廃炉研究プログラム・若手「健全性崩壊をもたらす微生物による視認不可腐食の分子生物・電気化学的診断及び抑制技術の開発」

検討されている研究課題

- 課題リスト「クラック状欠陥の検出、サイジングが可能な技術の開発」
- 課題リスト「検査・モニタリングを可能にする遠隔技術の開発」
- 課題リスト「減肉の検出、サイジングが可能な技術の開発」
- 課題リスト「非破壊検査技術」

2. 構造物の長期的な健全性を評価したい

燃料デブリ取り出し：【中期】

望ましい現状とその理由

- PCV や RPV 等の重要な機器・設備の維持すべき機能（例えば、支持機能や閉じ込め機能等）を維持するための対応策を講じるために、事故の影響及び経年劣化を踏まえた構造物の耐震性及び損傷発生時の影響を把握することが望まれる。その際、実機調査を通じて得られる構造物の状況・状態を用いて解析により事故進展を解明して、構造物の健全性評価を行うことが望まれる。
- デブリ取り出しにあたり放射性物質の閉じ込め機能を有するバウンダリとなる構造物・配管の健全性の維持を行うために、負圧管理により酸素を含む大気が PCV 内に流入する環境下、また、廃炉作業の過程で腐食が刻々と進行する中での構造物の腐食等の劣化現象を把握することが望まれる。腐食劣化に関しては、閉じ込め機能の確保のために取られる手法により、PCV 内の酸素濃度の変化が起きると大幅な違いが生じるため、連携した対応が望まれる。
- 気相、液相の流動の中で 1 F 環境特有の劣化（例えば、腐食やき裂等）の有無を確認できることが望ましい。
- 構造物の長期健全性を評価するためには、検査手法・評価手法の組み合わせとともに高精度でのアウトプットが創出されることが望ましい。

理想と現実のギャップ／解決すべき課題

- 大気中での使用を想定し、閉じ込めバウンダリとなっている原子炉格納容器（PCV）は耐食性の低い炭素鋼が使用されているが、事故後の 1F では、高放射線、室温、懸濁物・堆積物が存在する特殊な環境となっており、同環境での腐食現象に関する知見が不足している。燃料デブリの冷却のために PCV 内に注水が行われており、炭素鋼が水に浸漬している状態となっている。また、水の放射線分解により過酸化水素水や各種のラジカル種などの酸化性化学種が発生することが知られている。
- 燃料デブリ取り出し時に PCV 内を負圧に維持する場合は大気の流入により酸素濃度が上昇して、RPV・PCV 等の構造材及び必要な配管等の腐食が進行することが懸念されるものの、これまでの検

討から 40 年間分の鋼材の腐食による減肉を考慮しても基準地震動に対する耐震裕度を確保できる見通しが得られている。

- 一方、更なる腐食抑制対策のため、廃炉・汚染水対策事業において、長期の廃炉作業期間にわたり RPV・PCV 等の構造材及び必要な配管等の腐食の進行を防ぎ、現状を維持するための腐食抑制策の実機適用性について検討している。
- PCV・RPV 及び配管等については、放射線環境や海水投入の影響を考慮した鋼材の腐食抑制剤の有効性の試験も実施されており、全体腐食・局部腐食に対しても有効な腐食抑制剤の候補も抽出されている。一方、既設循環水冷却・浄化システムへの防錆剤の影響を緩和する上では、浄化の前段階で防錆剤濃度を低減する必要があると示されている。今後、PCV 循環冷却系の検討において、腐食抑制策と他の要求機能が満足される対応策を総合的に検討していく必要がある。
- 特に、S/C の足の腐食可能性は課題であり、どの様にモニタリング可能かが課題である。検査は難しいため、評価技術との組み合わせが求められる。
- 長期に亘るコンクリートの劣化については、更なる検討が必要と考えられる。検査が可能な部分は問題ないと考えられるが、例えば、RPV のペデスタル基礎部分等はモニタリングが困難であるため、評価技術との組合せが必須となる。

（参考）関連する研究課題

実施されている研究課題

- H29 年度英知「放射線環境下での腐食データベースの構築」
- R1 年度英知「微生物生態系による原子炉内物体の腐食・変質に関する評価研究」
 - － <https://jopss.jaea.go.jp/pdfdata/JAEA-Review-2020-047.pdf>
- 廃炉・汚染水対策事業「圧力容器／格納容器の耐震性・影響評価手法の開発（大規模地震時における安全シナリオの構築、安全シナリオ構築のための耐震性・影響評価手法の開発、安全シナリオの高度化）」
 - － http://irid.or.jp/wp-content/uploads/2017/06/20160000_11.pdf
- 課題解決型廃炉研究プログラム・一般「 $\alpha/\beta/\gamma$ 線ラジオリシス影響下における格納容器系統内広域防食の実現：ナノバブルを用いた新規防食技術の開発」

検討されている研究課題

- 課題リスト「コンクリート構造物の健全性評価」
- 課題リスト「レーザー超音波診断法（探傷技術）による金属亀裂、コンクリート健全性遠隔評価手法の開発」
- 課題リスト「鋼構造物腐食・防食、健全性評価」
- 課題リスト「格納容器、ペデスタル、圧力容器、炉内残存機器、損傷を受けた冷却プール内燃料集合体などの損傷を受けた機器(材料)の通常の構造設計基準での強度を超える領域での限界強度の推定法開発の基盤形成」
- 課題リスト「鋼構造物腐食に関する長期寿命予測技術および防食技術の開発」

3. 構造健全性を維持するための対策を確立したい

燃料デブリ取り出し：【中期】

望ましい現状とその理由

- 検査技術及び評価技術で健全性を評価した結果、経年劣化や冷却材の漏えい、動的機器の故障などが発生、顕在化した場合、あるいは既設構造物に新設構造物を追設する必要がある場合、構造健全性を維持するための技術が準備されていることが望まれる。

理想と現実のギャップ／解決すべき課題

- 検査技術及び評価技術による健全性評価を優先して実施する必要がある。

（参考）関連する研究課題

実施されている研究課題

- ・ 課題解決型廃炉研究プログラム・若手「健全性崩壊をもたらす微生物による視認不可腐食の分子生物・電気化学的診断及び抑制技術の開発」
- ・ 課題解決型廃炉研究プログラム・一般「 $\alpha/\beta/\gamma$ 線ラジオリシス影響下における格納容器系統内広域防食の実現：ナノバブルを用いた新規防食技術の開発」

検討されている研究課題

特になし

関連する課題

- デブリ-102「PCV・RPV 内部の構造物の状況把握」
- デブリ-208「安定状態維持のための燃料の状況把握」
- デブリ-213「燃料デブリ取り出し方針」
- デブリ-214「デブリ回収戦略の構築」
- デブリ-217「燃料デブリへのアクセスルートの構築」
- デブリ-218「燃料デブリ取り出し装置・機器の開発」
- デブリ-303「安全機能の継続的な維持・確保」